



## 第154期救急科を実施しました

[期 間] 令和6年10月11日（金）から11月29日（金）まで  
34日間

[会 場] 埼玉県消防学校  
所属消防本部（局）

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な  
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊  
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任  
教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 26消防本部（局）89名  
平均年齢25.0歳

# 埼玉県消防学校 第154期救急科 日課表

令和6年10月11日(金)～令和6年11月29日(金)  
34日間 272時間

## 受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

	日	曜日	1時限 8:30～9:20	2時限 9:20～10:10	3時限 10:10～11:00	4時限 11:10～12:00	5時限 13:00～13:50	6時限 13:50～14:40	7時限 14:50～15:40	8時限 15:50～16:40	
座学	10/11	金	入校式	ガイダンス (担当教官)			救急活動(法規) (戸田市消防本部)				
	10/15	火	循環器・出血 (川口市消防局)				神経 (深谷市消防本部)				
	10/16	水	消化器 (西入間広域消防組合消防本部)			呼吸器 (行田市消防本部)			救急医療 (医療整備課)		
	10/17	木	効果測定① (担当教官)	泌尿・生殖器 (埼玉東部消防組合消防局)			運動器 (埼玉県央広域消防本部)			社会保障・社会福祉Ⅱ (社会福祉課)	
	10/18	金	観察 (さいたま市消防局)				内分泌・代謝 (埼玉県南西部消防局)		皮膚・感覚器 (吉川松伏消防組合消防本部)		
	10/21	月	ショック (熊谷市消防本部)				CPA・CPR (蕨市消防本部)				
	10/22	火	血液・体液・熱中症 (埼玉県南西部消防局)			社会保障・社会福祉Ⅲ (地域包括ケア課)		細菌・感染症・感染防止・消毒 (上尾市消防本部)			
	10/23	水	応急処置総論・各論 (埼玉西部消防局)				熱傷・電撃症・救急搬送 (埼玉西部消防局)				
	10/24	木	急性心血管系疾患 (比企広域消防本部)				急性腹部疾患 (羽生市消防本部)				
	10/25	金	急性呼吸器疾患 (児玉郡市広域消防本部)				意識障害 (熊谷市消防本部)			手技訓練(ライン作成) (担当教官)	
	10/28	月	集団災害 (川越地区消防局)				脳血管障害 (草加八潮消防局)				
	10/29	火	外傷総論・その他外傷処置 (埼玉東部消防組合消防局)				一般外傷各論 (春日部市消防本部)				
	10/30	水	腹部外傷 (蓮田市消防本部)				脊椎・脊髄損傷 (埼玉西部消防局)				
	10/31	木	小児救急医療 (さいたま市消防局)				胸部外傷 (三郷市消防本部)				
	11/1	金	効果測定② (担当教官)	検査・高齢者 (坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部)			処置各論(心電図) (埼玉県央広域消防本部)				
	11/5	火	急性中毒 (川口市消防局)			資器材取扱 (旭化成ZOLLメディカル)		処置各論(在宅療法) (入間東部地区事務組合消防本部)			
	第一回事前	11/6	水	頭部・顔面外傷 (秩父消防本部)				産科・周産期 (草加八潮消防局)			
	第二回事前	11/7	木	精神救急 (上尾市消防本部)			鑑識 (埼玉県警察)		四肢・骨盤外傷 (越谷市消防局)		
	第三回事前	11/8	金	異物・溺水 (越谷市消防局)			接遇 (さいたま市消防局)		安全管理		実技訓練概要 (担当教官)

## 訓練場所 埼玉県消防学校 大講義室 屋内訓練場

		1時限 8:30~9:20	2時限 9:20~10:10	3時限 10:10~11:00	4時限 11:10~12:00	5時限 13:00~13:50	6時限 13:50~14:40	7時限 14:50~15:40	8時限 15:50~16:40
実技	11/11 月	後日掲示の救急科タイムテーブル参照							
	11/12 火								
	11/13 水								
	11/14 木								
	11/15 金								
	11/18 月	産婦人科救急訓練 (草加八潮消防局)							
	11/19 火								
	11/20 水	内因性シミュレーション							
	11/21 木								
	11/22 金	外因性シミュレーション							
	11/25 月								
11/26 火	効果確認シミュレーション								
11/26 火									
11/26 火	総合シミュレーション								
11/26 火									

## 受講場所 所属消防本部（局）

実技	11/27 水	現 場 実 習							
	11/28 木	現 場 実 習							

## 受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

		1時限 8:30~9:20	2時限 9:20~10:10	3時限 10:20~11:10	4時限 11:10~12:00	5時限 13:00~13:50	6時限 14:00~14:50	7時限 15:00~15:50	8時限 15:50~16:40
座学	11/29 金	R・I (埼玉県衛生研究所)		資機材取扱 (コーケンメディカル)		社会保障・社会福祉 I (国保医療課)	救急交通 (埼玉県警察)	修了式 (担当教官)	

座学風景



心肺蘇生訓練



外傷訓練



気道確保訓練



救急車取扱訓練



車外救出訓練



**春日部市消防本部 湯崎 大介 消防司令補 \* 第1小隊総代**

**修了しての感想**

第154期救急科89名の学生は、この救急科の課程において、傷病者の命をつなぐ使命を帯びて日々の準備を怠らず、傷病者やその家族たちに向き合う大切さ、また1人1人がもしもの時に備えて、知識や技術を持つことが重要であることを学ぶことができました。

座学・実技研修に際し、各消防本部・局救急救命士の方々が、細かく親切丁寧にご指導いただき、救急隊としてのスタートラインに立つことができました。また、各消防本部の垣根を越えて埼玉県一丸となって教育訓練に臨むことができ、非常に有意義な訓練を行うことができました。

また、訓練調整・環境整備にご尽力いただいた、埼玉県消防学校教官の方々、各消防本部・局の救急救命士の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



**後輩へのメッセージ**

約2ヶ月間の科程ですが、救急隊としての必要なスキル・知識を学ぶことができます。県内他消防本部・局の仲間とコミュニケーションを図り、有意義な日々を過ごしてください。

**川越地区消防局 西島 遼 消防士長 \* 第2小隊総代**

**修了しての感想**

消防学校救急科を成り立たせるためにご尽力いただいた講師や派遣教官の皆さま、また共に学びながら助け合った学生の皆さまに心から感謝申し上げます。講師や教官の皆さまが「救急の楽しさ」を教えてくださいのおかげで、以前よりも救急に対する興味や魅力を深く感じることができました。この救急科で出会った教官や学生は私にとって大きな成長の糧となっています。もっと早く救急科に来たかったというのが本音ですが、この貴重な出会いを活かし、人間力の向上に努めていきたいと思えます。



**後輩へのメッセージ**

救急科では、消防隊や救助隊でも必要な接遇や応急処置、心肺蘇生法など、救命に至る重要な技術、知識を多く学ぶことができます。また、今回ご指導いただいた教官の中には、救急科での出会いをきっかけに救命士を目指すようになった方もいらっしゃいました。このように、消防人生において良い影響を与えてくれる出会いが必ず待っていますので、ぜひ参加し、消防人としての幅を広げてください。



**上尾市消防本部 村松 周 消防士長** \*第1小隊副総代

**修了しての感想**

埼玉県内から所属、年齢、職歴、個性の違う89人の消防吏員が集まり、第154期救急科が始まりました。誰一人欠けることなく本研修を修了することができたのは、担当教官、支援教官、多くの方々からのご支援、ご協力のおかげです。同期とともに励まし合い、時には律しながら切磋琢磨した日々は、救急業務への知識や技術を学び、物事への感謝の気持ちや人との繋がり大切さなどに改めて気づかされました。救急科で学んだことを所属でも継続していき、日々の業務に活かしていきたいです。



**後輩へのメッセージ**

座学や実技では難しい内容も多く不安を感じることもありますが、「何としても助けたい」という強い使命感と責任感、熱い気持ちを持って一日一日を大切にしてください。同じ志を持つかけがえのない仲間との充実した日々が皆様を待っています。

**吉川松伏消防組合消防本部 宮本 亮 消防士長** \*第2小隊副総代

**修了しての感想**

まずこの度は専科教官におかれましては大変お世話になりました。また座学講師、実技教官におかれましては業務ご多忙の中、ご指導頂き感謝申し上げます。

私は勤続年数が長い者として、学生の大半が年齢の若いなかどう接して学んでいけばよいか不安に思いました。

しかし「救急の知識、技術を身に付ける。」という目的のもと、講師の座学を学び、指導を受けながら実技を行うとともに、他の学生の意見の交換をすることにより、明確な知識、技術を身に付けることができました。

この34日という期間は長いようでとても短く、1日1日とても充実した日々を送ることができました。この学びを実際の業務に活かし、更なる活躍を望みたいと思います。



**後輩へのメッセージ**

救急科で学ぶことの大事な項目に「ミスや失敗をしろ」という項目があります。この消防学校救急科では資器材や場所など恵まれた環境の中で学び、実践することができます。ですので失敗やミスをして責任を問われることはありません。人はミスや失敗をする生き物です。しかしそのミスから学ぶべきところがたくさんあります。

だからこそ消防学校救急科という場で失敗やミスをして知識や技術のひきだしを多く作って実際の現場で活用して欲しいと思っております。

救急科での学びを活かしたうえで、個々の活躍、各消防組織のますますのご発展をお祈り申し上げます。